

あがの 市議会だより



第6号

(4・5月臨時会号)

平成22年6月1日

発行／阿賀野市議会

編集／議会だより編集特別委員会

議会事務局／岡山町10番15号

TEL／0250-62-2510 (代表)

FAX／0250-61-2067

E-mail／gikai@city.agano.niigata.jp

4月23日の議会臨時会で 阿賀野市副市長の選任と水原郷病院の公設民営化が 慎重審議の結果それぞれ賛成多数で可決

阿賀野市副市長 佐藤一宇氏選任に同意

約2年間にわたり空席となっていた副市長に、前副市長の佐藤一宇氏を選任することに同意しました。



市長の提案に対する質疑と答弁の概要は次のとおりです。

質疑 市長と佐藤一宇氏では、政策的な違いがあると思うが、その調整を行ったのか。

答弁 水原郷病院の問題については、佐藤一宇氏に現状を話し、早期の公設民営化が必要である点は一致している。

質疑 副市長の人選で、佐藤一宇氏に至った経過と、なぜそうなったのかを報告願いたい。

答弁 水原郷病院の公設民営化を推進するには、佐藤一宇氏から手伝っていただき、現状を打開したい。前市長時代に副市長としての4年間の実績・経験があり、議会との関係を良好にする上でも期待するもの大きい。

質疑 市長は、副市長の人材については外部から登用したいとして、県職員・県OB・国の職員・そして公募するなど提案してき

たが実現できなかった経緯がある。なぜ、今までの答弁と内容が異なるのか。

答弁 副市長の人材については、内部より外部に求めて人選を考えたが、お願いする場面になると、お受けいただける人がいなかった。

質疑 議会の開催のたびに副市長人事の問題を提起していた。特に3月議会でも同様の話があり、議会から候補者を選考してもらいたいとの話もあった。今日の臨時会でこれまでの話がひっくり返ってしまったことは首長としていかがなものか。自分の発言や行動に責任を持ってもらいたい。

答弁 議会から候補者を選考することは難しく、候補者の一本化はできないことから取り下げたもので、難しいお願いをしたと反省している。

採決に先立ち、反対討論が次のとおり行われました。

反対討論

市長は、本田市政を否定し、市政刷新を掲げ立候補し、当選した。佐藤さんは当時、その本田さんを支える中心的な役割の副市長であった。副市長は市長と政策理念が同じでなければならぬと考える。佐藤さんが副市長を引き受けることは、みずから本田市政を否定し、天野市長の政策理念に賛同したことになる。この中途半端な気持ちで妥協したくなく、自分の信念で判断し反対する。

水原郷病院を指定管理者 制度で公設民営化へ

水原郷病院は10月1日から公設民営化され、新潟県厚生農業協同組合連合会(厚生連)に運営を委任することを可決しました。

公設民営化の内容は、公の施設である水原郷病院およびそれに付帯する介護老人保健施設五頭の里ならびに健康管理センターについて、厚生連に、平成22年10月1日から平成43年3月31日までの間、指定管理者制度により管理を行わせるものです。

病院関連施設の大半が耐用年数を超える実態から、早期の病院新築など抜本的な対策を必要としており、その構造的な課題の解決が病院の魅力付けとなり、結果的に医師の確保にも関連することから、早期の民営化により経営改善を図り、新病院建設に向けた方向付けを定めることとしたものです。

職員の処遇と労働条件については、これまでさまざまな角度から検討してきましたが、現状ではこれ以上の情報提供が難しいことから、具体的に説明するためには議決により、労働条件についてより詳細な協議・調整が可能となり、これまで不足していた部分を含め、職員に十分な説明責任を果たすことが可能と判断しています。

民営化の時期は、厚生連の組織としての人事異動を考慮し、雇用に関しても職員への十分な説明期間が確保されること、民営化が確定すれば時期にはこだわらないとする医師の意向などを総合的に判断し、7月1日から10月1日に延期したものです。

市長の提案に対する質疑と答弁の概要は次のとおりです。

民営化実施時期、突然の延期は

質疑 公設民営化の実施時期が突然7月1日から10月1日に延期されたが、何の説明もなしに議会提案された。市民説明会でも話があつたが、どのようなことなのか、だれが決めたのか。

答弁 民営化の時期については、4月19日夜に厚生連と協議し、調整がついたので、10月1日と決断した。実施時期の延期については事前に議会に話すべきであったと反省している。

民営化による診療機能の向上と市の財政負担の軽減が見えない

質疑 公設公営より公設民営によって生じる市の財政負担の軽減、病院の経営改善、救急体制の復活に期待し、議会としては、これまで公設民営化による財政シミュレーションや厚生連との基本的な条件(施設使用料、政策医療交付金、赤字補てん、新病院の建設、職員の処遇)について検討してきた。しかし、結果として、民営化しても市の財政負担は今

まで以上に増加し、救急体制についても厚生連の回答から医師の確保は難しく、改善の見通しが望めない。市の将来の財政事情に多大な影響を及ぼすことが危惧されるが、財源はどうするのか。

答弁 財源の裏づけは、市の財政シミュレーションで確認し、財政が成り立つものとして計画している。